

(7) 人権教育研究会

会 長 弘瀬 利英 (大用小)
副会長 宮川 成也 (東山小)
事務局 中田 慎一郎 (中村小)

1. 研究主題 「人権教育における授業の創造」

2. 研究経過

実施年月日	研究のあらまし	会場	備考
令和5年5月23日(木)	四万十市教育研究会 組織総会 内容：役員選出、研究主題設定、年間計画	中村中学校	14名参加
8月2日(金)	四万十市教育研究会 夏季研修会 ○研修会(講義) ・内容「人権教育をどうつくるか」 ・講師 弘瀬 ああと 氏(土佐中学・高等学校)	中村小学校	14名参加

3. 活動内容

夏季研修会(8月22日(火))

○研修会(講義) ・内容「人権教育をどうつくるか」 ・講師 弘瀬 ああと 氏(土佐中学・高等学校)

(1) どう作る? どこで、だれに、何を教えるのか?

- ・①人権保障②人権に関する知識・理解の深化③個別課題に対する知識・理解およびそれを通しての人権感覚の育成を意識し、人権はそれを確保しようとする意図的な努力が必要である。
- ・授業をつくるにあたって気にかけておきたいこととして、①当事者がいる可能性②みんなにとって新しい学びとなるように③身近なことで自分事として考えられることなどがある。

(2) 人権教育研究授業(社会科 歴史的分野)

- ・導入に使う教材は、現代にもあることを活用し、歴史的な背景をもつ現代の課題であると思しやすく、分かりやすく伝えることができる。
- ・世代を超えて連鎖した部落差別の構造を、歴史の中で考えていく。
- ・感情論だけで終わるのではなく、歴史的事実として正しく理解する。
- ・論理的思考に基づいて、話していく。
- ・明治から大正に時代が変わっても、差別はなくならなかった。法令だけでは人権は変わらないため、生きている人の意識が変わらないといけない。
- ・社会科の教科書の中で取り扱われている同和問題として、①室町時代の文化史②江戸時代の身分制確立③明治時代の身分制廃止④大正時代の全国水平社⑤現代の諸課題などがある。
- ・「人を大事にすること」「考えるのをやめないこと」「知ることは超えること」

(3) 教員の人権感覚

- ・教育活動全体を通じた人権学習の推進のために、小中で連携していく。

- ・「レッツ フィール 人権」に書かれていることを再度読み直す。
- ・自分ごととして捉えられるように、学校に応じて身近な課題を見つける。
- ・主体的に人権を学んでいく意識が、自分事の問題としてとらえることにつながり、自己の生き方を考える機会になる。
- ・いじめの認識を正しくもち、授業の中で子どもを大切にする。
- ・日々の取り組みや対応の中で誠実に対応し、子どもとの信頼関係をつくる。
- ・同和問題は教員の理解度に差があるため、段階に応じて話をしたり、学んだりする必要がある。
- ・学校教育の中で、子どもたちに正しい人権感覚の育成を図っていくことが重要。
- ・高知県 11 の人権課題を意識して教育実践に努めていく必要がある。

4. 今年度の成果と課題

成果

- ・夏季研修会において、実際にされている人権についての勉強や実践を話し合う良い機会となった。
- ・今年度は若年教員も多く、「授業を作るにあたって」という視点の講義は非常に勉強になった。
- ・夏研修会の後半に、それぞれの教員の立場での人権感覚や、学んできたことなどを話し合い、人権とは何かと向き合う機会となった。

課題

- ・年度内に研修メンバーと日程調整を行ったが、全員の参加できる日程を調整するのが難しかった。
- ・メンバーが増えれば各校の人権教育の現状や、実施内容などを更に深められると感じた。